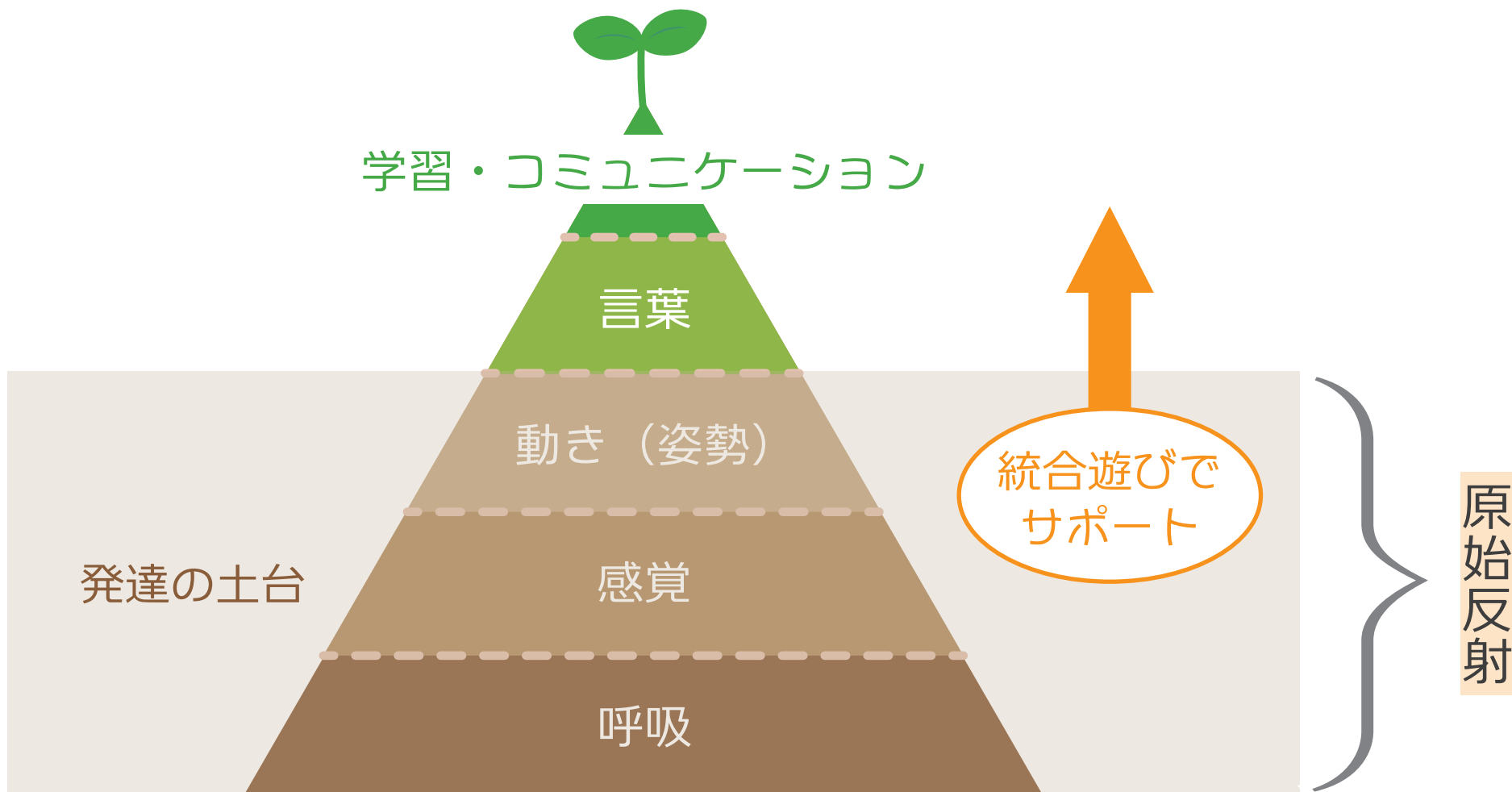


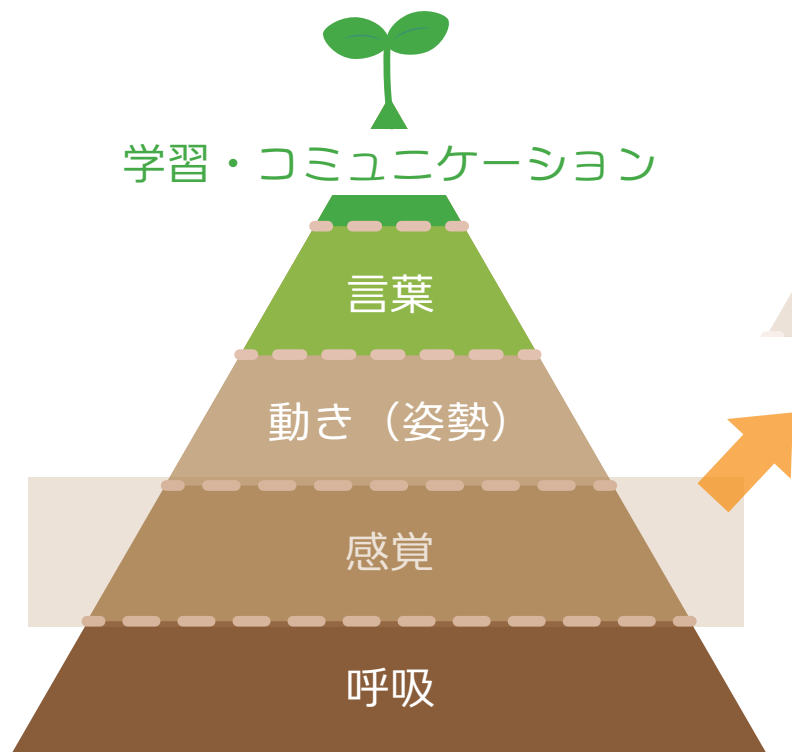
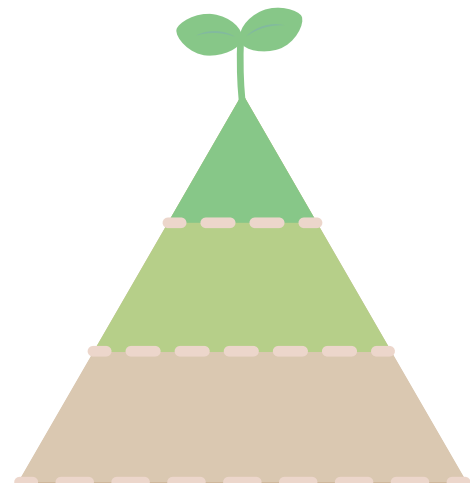
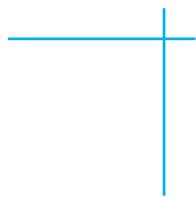
発達と支援

発達コーディネーター
東方 健一

目次 発達と支援







▶ 固有需要覚とは

- ボディイメージ
筋肉や関節がどのように動いているか、見なくてもなんとなく位置が分かる感覚。
- 力加減
筆圧、声の大きさ、ドアの開け閉めなど。

▶ 触覚とは

- 認識、探索
- 防御機能
- 人との距離感のセンサー

▶ 前庭覚とは

- バランスの感覚
- 自分の体の位置がわかる感覚
(加速、回転、傾きなど)
- 右脳 (妥協) と左脳 (拘り) をバランスよく使う機能
- 姿勢調整

感覚統合 発達土台の課題チェック表

児童名 ()					日付 . .
感覚名	場所	主な働き	感覚刺激	療育グッズ	
【前庭覚】 モロー反射	・三半規管のすぐそば	<ul style="list-style-type: none"> ・左脳（こだわり）と右脳（妥協）を繋ぐ（衝動性） ・姿勢調整（重力対抗） ・バランス（軸） ・覚醒（ぼんやり→はっきり） ・眼球運動サポート（頭の位置の変化に対応） 	<ul style="list-style-type: none"> ・回る ・揺れる ・飛ぶ ・走る ・上る下りる ・中心を意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモック ☆ ・サイバーホイール ☆ ・ボルタリング ☆ ・バランスボール ☆ ・ロディー 	など
【固有受容覚】 恐怖麻痺反射	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚全体の下にある筋肉 ・体全体にある関節 	<ul style="list-style-type: none"> ・力加減 ・ボディイメージ（筋肉の伸び縮み） ・運動をコントロール（関節を曲げ伸ばし） ・情緒安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・圧が入る ・ぶつかる ・擦れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモック ☆ ・バランスボール ☆ ・サイバーホイール ☆ ・ボールプール ・ロディー ・体育マット 	など
【触覚】 恐怖麻痺反射	・皮膚全体	<ul style="list-style-type: none"> ・防衛する（皮膚を通して危険察知） ・識別する（探索） ・ボディイメージ（体の輪郭・大きさ・長さ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・圧が入る ・ぶつかる ・擦れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンモック ☆ ・バランスボール ☆ ・サイバーホイール ☆ ・ボールプール ☆ ・体育マット ☆ 	など
【視知覚】	<ul style="list-style-type: none"> ・目の六眼筋 上下 奥 手前 斜め上 斜め下 	<ul style="list-style-type: none"> ・枠をとらえる ・字の形をとらえる ・文字の前後をとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・目の微細な動き 	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃぼん玉 ☆ ・風船 ☆ 	

大原則に子どもの自主性の遊びの中に発達（感覚統合）がある

- ▶ 安全 . . . 支援する上で、安全をベースとして子どもと関わる必要があります。
例えば、登る感覚刺激を求める子どもに、大原則により、下駄箱・荷物キャビネットなどに登るを許すかと言え、転倒・落下の危険を考慮して NO です。
※ 感覚統合遊びは、危険を伴う可能性もあるので、臨機応変に対応が求められます。
- ▶ 受容 . . . 発達個性のある子どもは、私たち（定型発達している大人）と異なった感覚を持っている可能性が大いにあることを前提に関わる。

例えば、冷たいペットボトルを子どもが触った時に、熱いと手を離れた場合に、どう対処するのが正解か？

①熱くないよ、大丈夫だから触ってごらん→NG 子どもからの支援員への印象は…

②僕は冷たいけど、〇〇君は熱いんだね、それは触れないね→OK 子どもからの支援員への印象は…

※ この受容の関わりができるか・できないかで、支援の質が変わります。

- ▶ 遊びの促し . . . 子どもの自主性のある遊び = 何もせず見守るではないです。
子どもは、創意工夫して本能が求める感覚統合遊びを求めますが、支援員が遊びを促し、求めている感覚統合遊びに繋げることも大切です。
例えば、体育マットを斜めにし、昇って滑る（摩擦）遊ぶを気づかせて遊ぶ
例えば、バランスボールを並べて、その上を滑る（摩擦・中心を意識）遊ぶを気づかせて遊ぶ
※ 感覚統合遊びは、見守りではなく、共に楽しんで遊ぶが重要です。

まとめ

最優先事項は、子どもの欲求が満たされるまで、
感覚刺激を入れれる遊びを提供する。



本人の選択する感覚刺激遊びが、効率良く発達します